

# きゅうりのネコブセンチュウ対策の推進

## ■背景とねらい

きゅうりの施設化を進める上で問題となる連作障害として、キュウリホモプシス根腐病や、きゅうりのネコブセンチュウ（以下「ネコブセンチュウ」という。）等の土壌病害虫が挙げられる。

昨年はキュウリホモプシス根腐病の現状把握（ほ場マッピング）やチラシを用いた周知活動に取り組み、一定の成果が見られたため、重点活動の最終年となる本年は、ネコブセンチュウに対する効果的な防除対策を中心に活動を展開した。

## ■本年度の取組

### 1 ネコブセンチュウに対する効果的な防除体系の実証

支援センターの調査研究に位置付け、殺センチュウ剤を用いた効果的な防除体系の検討を行った。

過去に行った調査研究において、ネコブセンチュウに対する土壌還元消毒の効果が実証されたが、処理時期が春先の低温期となる夏秋作型においてはその効果が劣り、薬剤防除に頼らざるを得ない状況にあるため、効果的な防除対策として粒剤と液剤を組み合わせた防除試験を実施した。

### 2 ネコブセンチュウ防除対策の周知活動

重点活動の開始に合わせ平成30年に実施した生産者アンケート調査では、収穫終了後の残渣をそのまますき込む生産者が26%おり、残渣の持ち出しといった基本的な防除対策の徹底も課題となった。このため、本年の調査研究の成果を含めて基本的な対策を生産者へ周知するためのチラシの作成に取り組んだ。

## ■本年度の成果

### 1 ネコブセンチュウに対する効果的な防除体系の実証

寄生性センチュウ数の推移を調査したところ、粒剤の施用後に大幅に減少しており、粒剤はセンチュウ類に対して一定の効果があることが確認できた。

液剤の施用後のセンチュウ数はどの区も大きな差は無かったが、根部のコブの着生程度を調査した結果では、粒剤と液剤を組み合わせた区でコブの着生度が小さく、液剤処理により防除効果が高まる結果となった。

### 2 防除の徹底に向けた検討会の開催

南信州野菜生産振興検討会（12月24日開催）に合わせ、調査研究の成果を伝達し、JA関係者とともに、ネコブセンチュウに対する防除対策の確認を行った。

### 3 ネコブセンチュウ対策の生産者への周知

本年作成した啓発チラシについて、JAきゅうり部会を通じて全会員へ配布するとともに、地元市場出荷者に対しても市場を経由して配布を行い、防除対策の周知を図った。



生産者向け啓発チラシ

## ■今後の課題と対応

施設化を進める上では、ネコブセンチュウやキュウリホモプシス根腐病など、連作に起因する障害は避けて通れない課題であり、引き続き3年間の重点活動で得られた成果を活用した生産安定に取り組む。

また、連作障害の回避の一つの手段として、養液栽培（隔離栽培）の実用性の検討を進める。

（地域第三係：安藤 忠幸）